

フィービラの森へようこそ！



古平の海を育む森づくり

2002 年、生活クラブ北海道
20 周年記念事業のひとつとして
使われなくなった牧草地を
購入。「フィービラの森」と名
づけ、森づくりをしています



鎌を使ってみんなで草刈り



クレヨンで石に
お絵描き

コロナ後、組合員みんなで行った久しぶりの草刈りツアーでした。
今年は積雪が多く雪解けが遅かったのに、たくさん草が生えて
いました。バスの中では森の成り立ちを紙芝居で学び、山菜採り
や石ころアートを楽しみ、ひまわりプロジェクトの種まきをしま
した。青空のもとバーベキューでは平田牧場の豚肉を堪能。
子ども 14 人を含む 46 人で、美味しく楽しい時間を過ごしました。

〈主催：森づくりプロジェクト 5/25〉



古平町に直営農場がある(株)平田牧場の豚肉でバーベキュー

INDEX

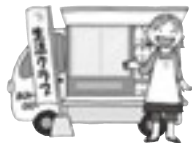
2024 年度 春の委員研修 楽しみながら仲間づくりをしよう	3
私たちがつくる福祉・たすけあい すすめよう！居場所づくり構想	4～5

千歳市で配送エリア拡大中 共同購入の輪を広げよう！	6
STOP! GM汚染 自生ナタネ監視活動	7

生活クラブ Wind

組織活動

6月は、まいたタネがスクスク伸びる季節。移動も落ち着き、新たな出会いもあったかと思えます。4月にまいたチラシや5月のウェブ広告、展示説明車あみーかななどの拡大活動から加入情報が上がってきています。各支部で企画しているイベントなどをお知らせして、積極的に誘いしてください。



消費委員会

生活クラブの消費材は、私たち組合員が必要だからと考え、こだわりを持って生産者と共に作ってきました。その豚肉の利用減に歯止めがかからず、2023年度はさらに危機的な減少になっています。

2024年度、豚プロジェクトの活動がスタートしました。さまざまな組合員18人が集まり、4月から賑やかに活動しています。豚肉について育て方や加工されて手元に届くまでなどを学び、色々な気づきがあります。新たな視点からの豚肉の良さも発見できそうです。活動は始まったばかり、豚肉の利用が増えるよう発信しますので、みなさん注目していってください。

原発ゼロ・市民エネルギー委員会

豊かな酪農のまち幌延町に、核ゴミの地層処分技術に関する研究開発を行う幌延深地層研究センターがあります。生活クラブは1985年からこの施設の建設に反対し、幌延町でサマーキャンプをおこなっています。参加した組合員と家族は、町民に「幌延を核のゴミ捨て場にして」とチラシを渡し、「核のゴミを考える全国集会」にも参加しています。今年は7月27、28日に開催します。現地のみなさんとの交流もありますのでぜひ参加して、幌延町や寿都町・神恵内村の核「ゴミ」のことをしっかり考えましょう。詳しくは、6月3週配布のチラシをご覧ください。

文化委員会

毎年夏に行っていたヒロシマ・ナガサキ平和行動は、新型コロナウイルスの感染拡大により2020年から中止としました。その代わりに『平和の新聞』を不定期に発行し、様々な角度から平和の大切さを訴えてきました。

今年は、待ちに待ったナガサキ平和行動を5年ぶりに実施します。これを機に『平和の新聞』は「憲法24条を知る」2回シリーズをもつてしばらく休刊します。1回目は発行済みですが、24条と9条の関係を取り上げる2回目は9月頃発行予定です。バックナンバーをご希望の方は、本部までお問い合わせください。



5月の理事会から

● 2024年度の監査方針並びに監査計画について決定しました。

● 2024年度通常総代会における議事進行と会場レイアウトについて確認しました。

● 生活クラブ北海道のホームページに記載する関連団体の変更に、利便性を図るためにトップページの更新が提案され確認しました。

● 生活クラブ館・とよひらとおした地域福祉のアピールと参加他団体とつながりを持つため、9月に開催される「地域ささえ愛サミット2024」(企画 認定NPO法人シーズネットノーカーズ・コレクティブプランズEPO)に参加することが承認されました。

● 支部大会など呼びかけをおこなったチエルノブイリ・福島医療カンパに59万4861円を送金したと報告がありました。

楽しみながら仲間づくりをしていこう

2024 年度の活動がはじまりました。今回の研修では、生活協同組合の成り立ちや生産者との関係性、生活クラブがより良い暮らしのために人と話し合う場であることを学びました。また、新規組合員に自分の言葉で消費材の魅力語っていくカードゲームを行いました。



はた げんり
1996年入協。配送センター15年、本部13年の勤務を経て2023年6月より現職

より良い生活や暮らしのために

常勤理事 畑 玄理

生活クラブの正式名称は「生活クラブ生活協同組合」です。協同組合の定義は「共通のニーズや願いを持った人同士が自発的に集まって、事業を通してそれを実現する組織」で、農業・森林や信用金庫も含まれます。複数の組織に属する人もいるので延べ人数ですが、組合員は世界で10億人にもなります。

協同組合が誕生した背景には、資本主義社会における富の格差がありました。労働者は低賃金・長時間労働の上、砂や藁^{わら}くずなどでかさ増しされた食品を高値で売り付けられ、適正価格で買うこともできませんでした。そこで、自らの生活を守ろうと1884年にイギリスのロッチデールで組合を作ったのが、協同組合の原型です。組合の店で売ったのは小麦粉・バター・砂糖・オートミール。やがて、衣料品や石けん、知識や教養も生活必需品ということで新聞や雑誌も置くようになりました。商人が利益を求めるのに対し、組合は適正な価格や自身の安全性を求めます。この精神は今も変わっておらず、生協の品(消費材)は自らの生活を守るという意志を持って選ぶものです。

生活クラブが展望するのは「地域の人々が、その地域において安心して暮らしていける地域社会の構築」です。エネルギーや食料の高騰、人口減少など、社会が変化する中ではさまざまな問題が起こります。そのたびに私たちは、自分たちの生活を守るために協力して解決しなければなりません。一人では限界があるので、多くの人の知恵で対応していく。そのためには仲間が必要です。食べる人、使う人を増やして、意思を持って毎月注文する。私も皆さんと同じ組合員です。楽しみながら仲間づくりをしていきましょう。

利用結集につなわれ〜

消費材カードでシミュレーション

さまざまな家族や消費材が描かれたカードを使い、グループワークをしました。



本部消費委員会の手作りカード

乾麺を常備しておくとし日の昼食などに便利。道産小麦なので安心ですよ♪



① 1人が新規組合員役になり、家族カードを取る



② 残りの人は消費材カードをめくり、①の人に自分の言葉でおすすめ



研修を兼ねて職員も参加しました



③ どんな風にアピールしたのかをグループごとに発表

- 私は、グループの方々から消費材をすすめてもらう新規組合員役でした。家族構成や年齢、仕事の有無など、その人の背景を考慮して消費材をすすめることが大切だと実感しました。まだ未加入の人にはそこまでの情報を聞き出すのは難しいですが、新規加入者さんとはおすすめ消費材を語る事で仲良くなれると思います。調理法やアレンジも教えてもらい、楽しくてためになるワークでした。
- 〈手稲支部運営委員長 佐々木 佳永〉

私たちがつくる福祉・たすけあい

すすめよう！居場所づくり構想

生活クラブは、「福祉・たすけあいを考える一年」として昨年話し合われてきた意見をもとに、2024年度から『居場所づくり構想』をすすめていきます。「人と人がつながる居場所を作っていくために、札幌市立大学 片山めぐみさんから話をお聞きし、イメージの共有を行いました。」

〈主催 福祉担当理事会 4/25 札幌エルプラザ〉



かたやま めぐみ さん
デザイン学部准教授

誰もが楽しめる

共生型の「コミュニティ

わが国の地域福祉は支援を必要とする人の増加やニーズの多様化により、行政や専門家だけでは役割を果たせなくなってきました。地域住民が、自分の身のまわりに支援を必要とする人がいること、自分自身や家族にもいざという時があることを知って、互いに支え合える地域社会を創造していくことが求められています。

私はもともと建築設計が専門なんですが、建物だけではなく人の心を動かす何かをと思

地域交流が楽しめる

マルシェ「八百カフェ」

八百カフェは、地域コミュニケーションを考える授業の中で



ダンスや音楽ライブなど、さまざまなパフォーマンスもおこなわれます

い、社会福祉士の資格を取りました。福祉もデザインも根本は、人が心身ともに健康で機嫌良く生きていきたいという、同じ問題を想定していると思います。

福祉×デザインというのを新しい視点と考えて、どちらかが支援する側になったりされる側になったりではなく、お互いが気がついたら支援していた、支援される側だったということをやデザイン思考で楽しく生み出したことを研究のモットーとしています。

出た「地域のコミュニティを活性化させたい」という学生のアイデアを実現したもので、地域住民と共に芸術の森キャンパスで開催しています。出店ブースは学生のオリジナルグッズや地域住民の手作り雑貨販売、野菜などを売る朝市、医師による健康相談コーナーなど様々で、年齢や立場に関係なく誰もが出店できます。来場者は買い物はもちろん、子どもを遊ばせたり音

楽を聴いたり、思い思いに楽しむことができます。

学生から「マルシェに来る人々に役割や居場所を生み出せるのか」という問いがあり、来場者100人に「八百カフェにあなたの役割があると思いますか？」というアンケートをとってみました。運営者や出店者にははつきりとした役割がありますよね。けれども、来るだけの人たちも6割があると答えたんです。買い物や遊びに来るだけでも、来場者は八百カフェでの役割を自認し、居場所があると感じていることがわかりました。

住民参加の居場所づくり

砂川 SuBACo

砂川市で地域おこし協力隊をしている卒業生から頼まれて、商店街の中心部にある空き店舗

を改装して地域の人たちを盛り上げる場所をつくるお手伝いをしました。リニューアル前は行政が管理していて地域の人たちとの関係もあやふやでしたが、改装後は住民・地域団体・行政・市外協力者・商店が情報交換をして一堂に事業を進められるような場にしたということ、3つの手法を実施しました。

まず一つめは、地域を巻き込んだ改装事業です。リニューアル後のイメージを地域の人みんなで考えるワークショップを開催しました。面白かったのが、そのワークショップに来ていた人のなかに電気屋さんや建築屋さんも混ざっていて、その人たちがどんどん無償で改装に参加してくれるようになったんです。「あそこの現場でいっぱい廃材出てるから、ここの床それで全部敷けるよ」とか、電気工事を勝手にやってくれたりとか、たくさん協力を得られました。壁に珪藻土を塗るワークショップには、大人だけでなく子どもも参加してくれました。

二つめは、空間のブランディングです。高いデザイン性を確保しながら商業的な印象を与えて、公共施設特有の関わりにくさを解消しました。市内にある



Sunagawa Bank Art Communication
→ SuBACo (すばこ) とネーミング

お店105軒分のショップカードを作成して、すばこの壁にディスプレイしました。立ち寄った人が「こんなお店があるんだ」と楽しんだり、バス待ちの人がスツと入ってきて手に取ったりできるコーナーになっています。

三つめは、経過を地域の人と共有するフィードバックです。改装に至った経緯、ワークショップで話し合った内容やデザイン決定をまとめたニュースを発刊し、地域新聞や広報誌などに折り込んで配布しました。また、改装の過程をフェイスブックやインスタグラムなどで発信して、応援してくれる人や完成を楽しみにしてくれる人を増やしてきました。リニューアル後は、来館者もイベントの開催も大幅に増加し、地域の方からイベントの企画も持ち込まれるようになったそうです。

やってみて思ったのは、住民

参加の効果です。みんなで作ることである小さな物語が生まれるんですね。本当に思い出話がいっぱいあって、共有された物語は思いもしない次の展開を生み、多世代・多職種が共に語り合うことがそれぞれの新しい役割を生むということが勝手に起きていきました。

互いを認め必要とし合える

居場所と役割

最後に、地域の人々の集まる場所にどういった仕掛けをしたら人が集うのかというと、そもそも空き家自体が仕掛けになります。改修中の建物やインテリアをワクワクさせながら見せる。そこで何をしたいかワクワクしながら考えてもらう。集めたアイデアすべてを実現しなくてもよい。プロセスや集めたアイデアの取捨選択をていねいに説明して、主催者の考えを伝える。それが広報紙の配布であっても対話の場になります。参加してない人もそういう対話がオープンになることで、関心や信頼が芽生える。そして、改修プロセスを共有する。身体を動かしたり、自分の仕事の足跡が残るということが効果的です。

また、どうすれば自分の居場所と感ずるようになるのかとい

うと、やはり「役割」や「係」をクリエイトすることです。その役割は会計係や掃除係とかいうことではなくて、「〇〇さんはお喋り上手だから、ここいるだけでいい」「みたいな、その人本来の姿が出てくることをこっち側で見つけて促すというのが、すごく効果的だと思います。

先ほどの話に戻りますが、マルシェの研究をしている学生が、「八百カフェに地域の人がいってくれるだけでありがたいと感じる。来てくれてありがとうと言いたい。地域の人みんなで作っている空間やあの感覚を、どう表現したいのしょうか」と尋ねてきました。「福祉では、出番と居場所っていうよ」と答えると、「コロナでキャンパスライフが皆無になり、このまま大学生活が終わるのかと不安だった自分にも、あの出番と居場所が必要なものでした」と言ったんです。コロナの後、日本中で必要とされているのはこういうことなんだとハッとしました。市場経済主義的な役割ではなくそこにいて、あなたがいるからこの空気があるよねというような役割。そして、そこに感じられる居場所をクリエイトすることが今、本当に必要とされているのだと思います。

〈取材／五十嵐〉

～自分らしく生きるために～

みんなで考える 居場所づくり構想

福祉担当理事 山崎 栄子

生活クラブは少子高齢化が進む地域社会において、『多世代の交流や一人ひとりにとっての居場所をつくり、支え合い・たすけあう地域を創っていききたい』との想いから、次にすすめる福祉政策は「多世代の居場所づくり」に取り組むことを、第十三次中期5年計画に盛り込みました。居場所づくりのコンセプトは、地域に暮らす人が生き生きと暮らせる居場所をつくること、そこから地域で支え合うしくみをつくることです。すでに居場所づくりをおこなっている生活クラブ館・とよひらと旧デイサービスセンターデイこたけだった建物を実践の場として、それぞれの特性を活かした居場所づくりをすすめます。生活クラブ館・とよひらはワーカーズ・コレクティブぼんこたん、デイこたけだった建物は居場所づくりプロジェク

トが企画と運営を担い、「とよひら地域福祉を考える会」で情報共有し、地域の人とも協力しながらつくっていきます。豊平区月寒東で福祉事業を続けてきた中で培ってきた地域の人のつながりや、生活クラブ館を通して出会った人たちを大切にしながら、食を中心にいつでもふらっと立ち寄れる居場所をつくっていききたいと考えています。この取り組みは豊平に留まらず、社会全体に広がっていくことをめざしていくのが生活クラブがつくる福祉です。

※「とよひら地域福祉を考える会」とは、生活クラブ館・とよひらを中心とした「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」に則った地域福祉づくりを検討、実践する会です。参加構成団体：福祉担当理事会、ワーカーズ・コレクティブぼんこたん、生活クラブケアプランセンター、豊平支部

千歳市で配送エリア拡大中

共同購入の輪を広げよう!

2023年4月に千歳市の一部から始まった配送エリア拡大は、現在、千歳市市街全域に広がりつつあります。新規加入者、恵庭支部の班（千歳在住者）やインターネット支部からの移動を合わせて30人が共同購入に参加しています。千歳市では、恵庭支部と本部組織活動課が連携を取りながらチラシまきや折込チラシ、展示説明車あみーかの運行など、配達エリア拡大に向けて活動しています。4月20日、千歳市清流町内会館でおこなった交流会の様子をお伝えします。



千歳から2人、恵庭から5人の方が参加してくれました

ようこそ 恵庭支部へ!

千歳組合員交流会

千歳の組合員にも生活クラブをもっと知ってもらいたい、支部組合員同士の交流を深めたいという思いで、交流会を開催しました。

サツラク農業協同組合を招いた生産者交流会では、牛の健康、飼料、殺菌方法、管理と検査など、生活クラブ牛乳のおいしさの理由を知ることができました。また、牛の消化酵素を使ったレンネット実験（右写真）では、生活クラブ牛乳が長く腸にとどまるため、ゆっくり消化吸収されることがわかりました。そして、お楽しみのバター作りです。生クリームを入



サツラク農協のおおがき大蔵さん

れたボトルをふりふり、皆で協力しながらようやく固まりました。生産者と組合員の交流の楽しさは生活クラブならでは! できたてバターをホットケーキに塗り、「作りたてはふわっとして贅沢な味わい!」と美味しくいただきました。また、生活クラブ三原則「出資・利用・運営」を寸劇でわかりやすく説明するなど、盛りだくさんな内容となりました。

千歳市が配達エリアになって1年。千歳での仲間づくりにさらに力を入れ、共同購入の輪を広げていきます。まずは、生活クラブを知ってもらうことから。展示説明車あみーかやイベント開催など生活クラブを発信する機会を作るので、ぜひ千歳のお友だちに広めてくださいね!

恵庭支部担当理事 竹森明子



「ますます牛乳が好きになりました!」「低温殺菌について聞き、勉強になった」「実験を目の当たりにして納得!」など、生活クラブ牛乳の良さを再確認しました



寸劇

職員も熱演!!



バター作り

子どもたちも
フリフリ頑張ったよ



STOP! GM汚染

自生ナタネ監視活動

2005年に始まった市民による自生遺伝子組み換えナタネ(以下GMナタネ)の全国調査では、これまでに輸入港や幹線道路だけでなく住宅地でも見つかっています。生活クラブ北海道でも支部主体で毎年調査を続けていたところ、2020年に小樽港で発見し、以降毎年自生ナタネやカラシナを確認しています。各支部で行われている自生GMナタネ調査の今年度の活動を紹介します。〈本部消費委員会〉

小樽 5/17 小樽市港町(小樽港)



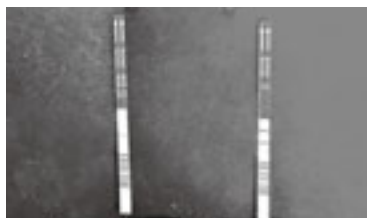
小樽市産業港湾部の方と調査

市と協力して対策を考えていきたい

小樽港でGMナタネが発見されて以来、同じ場所でも調査を続けて5年目です。輸入小麦を倉庫からトラックに積み込む場所なので、地面に小麦とナタネがこぼれ落ちていきます。調査中も積み込み作業をしていたので、舞い散った小麦が私たちの体や車に付着したり、鳩が群がってついばんでいたりと、ナタネが飛散する理由がその様子からわかりました。倉庫の壁際には小麦とナタネが自生しています。今年は生育が遅く少ししか発見できませんでしたが、次々とこぼれ落ち次々と生え、雪が降るまで生育しています。自生ナタネを2本採取し検査したところ、2本ともバスタ耐性^{あまがさ}ナタネを示す陽性反応がでました。天笠さんから「これはナタネの個体数が少ないのに、検査すると陽性になる確率が高い。これから監視していく必要がある」と言われました。今後小樽市と協力し、飛散させないための対策などを考えていきたいと思っています。

〈小樽支部運営委員 三ツ江真理子〉

※バスタ耐性：除草剤成分グリホシネートで枯れないように遺伝子組み換えされたもの



ラウンドアップ バスタ

ラウンドアップ、バスタは除草剤。これらに耐性を持つよう遺伝子組み換えされたナタネは、陽性を示す2本線が現れる

〈手稲支部消費委員長 高桑 晶子〉

私は初めて調査に参加しました。天笠先生は、「ナタネが輸入されていない小樽市でGMナタネが発見されているのは、種が混じったカナダ産小麦をトラックに乗せる際に、こぼれ落ちて生えているから」などわかりやすく説明してくれましたので、調査の意味を理解することができました。実際に起きていることを目で見て認識できる、とても貴重な経験でした。

翌日の天笠先生による講演会では「アメリカ・カナダ産小麦には収穫直前に撒いた除草剤が残留しており、スーパーに並んでいる大手メーカーのパンからは100%検出される」という話を聞き、ゾッとしました。国産や道産の小麦は大丈夫との話で少し安心しましたが、小麦以外でも自分や家族のためにきちんと選び食べていこうと思いました。

選んで食べることが大切



遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン代表の天笠啓祐さん(左から4人め)も調査に同行

厚別 5/28 札幌市厚別区 大谷地東1丁目



南に国道12号線、北に流通センターがある、生活クラブ本部の近くに咲く花を検査。結果は陰性

岩見沢 5/24 岩見沢市栗沢町上幌



ひっきりなしにトラックが走る道路脇に咲くセイヨウカラシナを検査し、陰性

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東1丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7229
発行日 2024年6月20日 編集 広報委員会 W・C・O・P・R・S・E・D・O

2024年度 せっけん使おう! 7月はシャボン玉月間

生活クラブ北海道は、地域生協・漁協・NPO・市民団体などと「せっけん運動ネットワーク」を構成し、全国の仲間たちと石けん利用の普及のために活動しています。1984年から毎年7月をシャボン玉月間として「合成洗剤ではなく石けんを使いましょう」とポスターで広く市民へ呼びかけています。今年度のキャッチコピー「あなたの選択で未来が変わる～始めようせっけん生活～」をもとにしたポスターができあがり、今後は各支部に配布し運営委員会が中心になって公共施設などに掲示していきます。



せっけん運動ネットワーク

検索

詳しくはHPをご覧ください

<https://sekkennet.org/>

学習会 子どもを健康被害から守るため 『集団フッ素洗口』が始まる前に知ってほしいこと

日時 7月6日(土) 13:30～15:30
場所 札幌エルプラザ 2階 環境研修室

オンライン
併用開催

(札幌市北区北8西3)

参加費 100円(資料代)

内容 2024年度から、札幌市内の小学校4校で集団フッ素洗口のモデル事業が始まりました。歯科医師の清水央雄さんを講師に、集団フッ素洗口の問題点などを学びます。※託児あり

ニュース

6月3週

主催 「集団フッ素洗口」問題を考える市民の会



よろず介護相談会

相談料無料
予約不要

6月28日(金) 10:00～15:00

ご家族の介護やご自身のことで、心配や不安はありませんか? 経験豊富なケアマネジャーがお待ちしています。お気軽にご相談ください。

メール



主催 生活クラブケアプランセンター
札幌市豊平区月寒東3条4丁目1-3
生活クラブ館・とよひら 3階 ☎ 011(850)1088

メール・電話相談は
いつでも可能です

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

居場所づくりプロジェクト

居場所づくり構想については
P4-5をご覧ください

メンバー募集

ニュース

6月3週

旧デイサービスセンターの建物を使い、多世代の居場所を一緒につくりませんか? 組合員なら誰でも参加できます。問合せは本部 福祉担当まで。



生活クラブ消費材の思い出

北広島支部 山崎 景子

小学校低学年の時の理科の実験で、マヨネーズがケチャップの空きプラスチック容器を持ってくるように言われたことがあった。我が家ではマヨネーズもケチャップも生活クラブの瓶入りのもの。指定のプラスチック容器を用意できず、隣に住む祖母の家から明らかに形状の違う蜂蜜の容器を貰い、仕方なく持って行った。先生やクラスメイトは蜂蜜の容器に驚いた様子で、しかもそれは実験にとっても不向きだったため、何ともきまりの悪い思いをしたのを今でもよく覚えている。

生活クラブの牛乳や卵や肉、瓶入りのマヨネーズやケチャップ。子ども心に味が濃くて美味しいと思っていたが、母がそれらを選んで理由までは深く考えたことがなかった。結婚して初めて神奈川県に移住した時、迷わず生活クラブに加入する手続きを取った。一家族に美味しく安心して食事を食べさせたい。生活クラブの消費材を選ぶのは根源的な母の愛だと気づいたのは、もう少し後のことだった。

組合員のエッセイを募集します。4000字程度。テーマの指定はありません。本部 川瀬まで、ファックスが業務便で送って下さい。



道産 道産間伐材を配合した紙を使用しています